

助動詞「じ」確認テスト（打消推量・打消意志） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 完了の助動詞「ぬ」＝「やみぬ」の「ぬ」。過去の助動詞「けり」＝「慰みけり」の「けり」。

問2 打消意志。手がかり：主語が「われ」（一人称）なので「～まい・～ないつもりだ」の打消意志。訳「私は都へは上るまい」。

問3 「上ら」はラ行四段活用動詞「上る」の未然形。

問4 打消意志。話し手が「(私は) 人には決して漏らすまい」と自分の意志を述べている（「よも～じ」で打消の強調）。

問5 打消推量。主語は「神」（三人称）で、「神もお許しにならないだろう」の意。

問6 (イ) まじ。「じ」よりも強い打消推量・打消意志・不可能・禁止を表す。「む」に対する「べし」の打消版が「まじ」にあたる。）

問7 打消意志。「(私は) 今はもう何ごとも惜しむまい」と、話し手自身の心づもりを述べている。

問8 訳「頼りになる人もいないだろう。」意味：打消推量（主語が三人称「人」で、「いないだろう」と推量している）。

問9 打消推量。主語は「人」（三人称）で、「今夜は人も来ないだろう」の意。

問10 読み「こ」、活用形は未然形。（カ変「来」の未然形は「こ」。）

問11 打消意志。主語は「われ」（一人称）で、「この恩を忘れまい・忘れないつもりだ」の意。

問12 「忘れむ」は「忘れよう（としよう）」という肯定の意志・推量を表すが、「忘れじ」はその打消で「忘れまい・忘れないつもりだ」の意になる。「じ」は「む」の打消にあたる助動詞で、「む」が肯定の推量・意志を表すのに対し、「じ」は打消推量・打消意志を表す（ちょうど裏返しの関係）。

問13 未然形。理由：助動詞「じ」は未然形に接続するため、四段動詞「変はる」は未然形「変はら」となる。

問14 未然形。（上一段「用ゐる」の未然形は「用ゐ」。）

問15 ①違はじ＝一人称（契りを交わす当事者＝話し手）／打消意志（決して違うまい）。②討たれじ＝三人称（討たれる相手＝他者）／打消推量（たやすくは討たれないだろう）。③問はじ＝一人称（世を捨てた「身」＝話し手自身）／打消意志（今さら都のことも尋ねまい）。

問16 未然形。（「じ」は未然形接続。）

問17 ⑥「あらじ」の「じ」＝終止形（「頼もしき人もあらじ。」と句点で言い切る文末で、結びを求める係助詞「ぞ・なむ・や・か」がない。「誰か」の「か」は前の句の「あらむ」で既に結ばれており、「も」は文末の活用形を変えない係助詞である）。⑩「違はじと」の「じ」＝終止形（引用の格助詞「と」の上は終止形。なお「じ」

は終止形・連体形が同形)。

※「じ」は無変化に近く、連体形・已然形も「じ」の形をとる点が重要。

問18 ②「私は都へは上るまい。」／⑦「今夜は人も来ないだろう。」

問19 ⑧「私が生きているかぎり、この恩を忘れまい (忘れないつもりだ)。」／⑭「再びこの花を見ることもないだろう。」

問20 (a) 打消推量・打消意志の「じ」(未然形「漏らさ」＋「じ」)。(b) 打消の「ず」の已然形「ね」(係助詞「こそ」の結びで已然形。「色が見えないのに」の意)。

問21 ⑩「死なむ」の「む」は肯定の意志(～よう)を表し、②「上らじ」の「じ」はその打消にあたる打消意志(～まい)を表す。両者は肯定(む)と打消(じ)の対応関係にある。

問22 意志。「む」は一人称主語のとき意志「～しよう」を表す。その打消が「じ」の打消意志。)。